

第12回資源管理手法検討部会の結果について

令和5年4月24日
水産政策審議会
資源管理分科会
資源管理手法検討部会

令和5年3月17日（金）に開催された第12回資源管理手法検討部会で整理された論点及び意見は次のとおり。

1. ヒラメ日本海北部系群

● 漁獲等報告の収集について

- スマート水産産業推進事業の活用等により、現場に過度な負担がかからないような漁獲報告体制の構築が必要。
- 遊漁についての情報収集が必要。

● 資源評価について

- 本系群に関し、これまで漁業者が行ってきた種苗放流及び体長制限等の自主管理の効果を示すべき。
- 海洋環境の変化や種苗放流の効果も考慮した上で、資源管理目標を導入すべき。
- 高齢魚の割合が高いMSY水準を目標とするのではなく、市場価値を踏まえた目標設定とすべき。
- 高次捕食者であるヒラメと他の魚種との関係を踏まえた目標設定を検討してほしい。
- 今後、漁業者の減少による漁獲圧の減少が見込まれるため、このことを踏まえた資源評価をしてほしい。

● 資源管理について

- 各地域で行ってきた種苗放流や規制措置の内容が異なる状況も踏まえ、漁業者間で不公平が出ないように、平等に管理していく体制を構築する必要がある。
- 遊漁の管理方策についても検討が必要。
- TAC導入にあたっては、漁業者の意見を十分に聴いた上で慎重に行ってほしい。
- 資源状況の変動に伴って、臨機応変に資源管理方法を変えていく必要がある。
- 管理方策の検討に当たっては、漁業者が減少傾向にあることも考慮すべき。
- ヤナギムシガレイやマガレイなどヒラメと一緒に漁獲される魚種との関係を踏まえた管理方策を検討してほしい。
- 混獲種の数量管理を適切に運用するための具体的な方策を提示してほしい。

● SH会合で特に説明すべき重要事項について

- SH会合での説明は、漁業者、研究者、有識者等以外の一般の方も理解できるようにわかりやすくしてほしい。
- 資源評価の課題や精度について、わかりやすく説明してほしい。
- 本系群についての数量管理の意義や必要性、資源管理の目指す方向性について、理解が得られるように丁寧に説明してほしい。その際には、将来資源が減少した際に数量管理が行われていなかった際のリスクを説明すべき。

2. ヒラメ日本海中西部・東シナ海系群

● 漁獲等報告の収集について

- スマート水産業推進事業の活用等により、現場に過度な負担がかからないような漁獲報告体制の構築が必要。
- 市場外流通や遊漁についての情報収集が必要。

● 資源評価について

- 資源評価には、新型コロナウイルスの影響等による漁獲努力量の減少や寄生虫の影響、海洋環境の変化、餌生物の資源状況を反映すべき。
- 海洋環境の変化や種苗放流の効果も考慮した上で、資源管理目標を導入すべき。
- 資源評価に用いたデータと、資源評価プロセス（※1A系と1B系の資源評価方法の違いも含む）について、わかりやすく丁寧に説明すべき。
- 経済的価値を踏まえた暫定的な管理目標を設定した場合の将来予測シナリオも示すべき。
- 数量管理のみで（サイズ規制なしに）MSYを達成する年齢構成を実現できるのか説明すべき。
- 仮にTACによって操業が規制された場合の資源評価方法について、あらかじめ検討すべき。

● 資源管理について

- 各地域で行ってきた種苗放流や規制措置の内容が異なる状況も踏まえ、漁業者間で不公平が出ないように、平等に管理していく体制を構築する必要がある。特に、本系群に係る栽培漁業との関係を考慮する必要がある。
- 漁業者が減少する一方で遊漁は活発であり、遊漁の管理方策について検討が必要。
- 短期間に漁獲量が増減するような漁獲シナリオではなく、上限下限ルールを適用した場合の将来予測結果も踏まえて中長期的に安定したシナリオを採択すべき。
- 突発的な来遊への対応や漁業経営に考慮した柔軟な管理方法、漁獲シナリオを検討してほしい。
- ヒラメと一緒に漁獲される魚種との関係を踏まえた管理方策を検討してほしい。
- 混獲種の数量管理を適切に運用するための具体的な方策を提示してほしい。
- 漁獲努力量による管理や放流量の増加等数量管理以外の管理手法についても検討してほしい。
- 漁獲規制がかかることを想定した休漁支援等の経営支援制度を整備すべき。

● SH会合で特に説明すべき重要事項について

- SH会合での説明は、漁業者、研究者、有識者等以外の一般の方も理解できるようにわかりやすくしてほしい。
- 資源評価の精度、データセット、外国との交流、種苗放流の効果、遊漁への考慮等について説明して欲しい。
- ステップアップの考え方及びスケジュール、具体的な資源管理方策について説明すべき。
- 水産庁補助事業で設定したKPIについて、漁獲量が削減された場合の取扱を説明して欲しい。

- 本系群についてのTAC管理の意義や必要性（TACを導入することで遊漁の規制もできる可能性があることや、漁業者のためになる点などを含む）、TAC管理によって目指す漁業の姿について、理解が得られるように丁寧に説明してほしい。その際には、将来資源が減少した際に数量管理が行われていなかった際のリスクを説明すべき。

（以 上）